

一人ひとりに できること

今月の表紙



今月の表紙は、リサイクルの一環として、園庭でコンポスト作りに取り組む村松幼稚園の園児と先生。ごみを減らすための工夫は、私たちの暮らしのすぐそばにあります。

資源は、生まれ変わる

私たちが、日々生活する上でごみは必ず出るものです。身近にあるからこそ、深く考えることなく、ただ捨てるだけの存在になってしまっているかもしれません。そんな、普段何気なく出しているごみですが、正しく分別すれば、新たな資源として形を変えて生まれ変わるものもあります。

今号では、新たなものに生まれ変わり、私たちの暮らしを支えている「資源物」に注目します。各家庭から出た資源物がどのような過程を経てリサイクル工場に運ばれ、新たな形に生まれ変わるのか。より多くの資源をリサイクルするために、私たちにできることはあるのか。小さな疑問をひもときながら、環境を守るための取り組みを一緒に考えてみませんか。



村の一人当たりにかかる
ごみ処理の費用
年間約10,404円
県平均は
年間約15,926円



村のリサイクル率は
22・3％
県平均19・1％
県内で11番目に高い



村の一人一日当たりの
家庭ごみの量
約677グラム
県平均約663グラム

資源物のゆくえに迫る！

資源物は、どこへ運ばれて、どのような形に生まれ変わるのでしょうか。そのゆくえを追ってみましょう。

1 資源物ステーションに持ち込まれる

各家庭から出た資源物は、村内64か所の資源物ステーションに持ち込まれます。



豆知識

安全に、そして効率よく作業を進めるために、種類ごとにきちんと整理して、回収車に積み込んでいます。

豆知識

資源物は、家庭などから出るごみのうち、再び利用できるもののことです。牛乳パックや新聞、ビン類など多くのものが当てはまります。

注意点

村では、色付きや汚れたペットボトルはリサイクルされません。正しく分けて、資源を有効に活用しましょう。



2 事業者回収される

回収車1台につき2人体制で作業します。1台に積める資源物の量は、およそ資源物ステーション1か所分です。



3 清掃センターに搬入される

回収された資源物は清掃センターに運ばれます。回収車は、1日約4～6か所の資源物ステーションを往復します。



注意点

回収されたペットボトルの山の中に、ビンの破片が混じっていることも。正しい分別で資源を活かし、作業員の安全も守りましょう。



4 清掃センターで分別される

より多くの資源を再生するため、作業員が手作業で正しく分別されているかを確認してから、種類ごとにリサイクル工場へ送り出しています。



5 再生品として生まれ変わる

工場に運ばれた資源物は、洗浄や加工を経て新たな原料となり、私たちの暮らしを支える再生品に生まれ変わります。

【例】

ペットボトル
→卵パック

牛乳パック

→トイレトペーパー



豆知識

回収したペットボトルを粒状の原材料に加工したものが「再生ペットボトルペレット」です。新しいペットボトルや卵パックなど、さまざまな製品の原材料として再び活用されます。



これからも地域に寄り添って

村で、資源物の回収が始まった当初から、この仕事に携わっています。12年前に父から引き継いで以来、安全に気を配りながら、より多くのものをリサイクルに回せるよう、試行錯誤しながら作業を続けています。

回収は、ほぼ毎日行っています。暑い日の作業は特に大変ですが、地域の皆さんからの「ありがと」などの声が活力になっています。また、回収時に分別方法の相談を受けることもあり、暮らしに密着した仕事だと感じています。村のリサイクルが進むよう、これからもコミュニケーションを大切にしながら、地域に寄り添った活動を続けていきたいです。



有限会社川崎産業 代表
川崎 勇太 さん

もったいないを減らすために

清掃センターには、分別方法などごみの出し方に悩む住民から、日々さまざまな相談が寄せられます。一人ひとりの状況に耳を傾け、「捨てる前に、周りに使う人はいないですか」など提案をし、資源として再利用できないかを考え、環境に配慮した出し方を伝えるよう心がけています。

ごみに関する業務を担当しはじめて驚いたのは、新品同様のものまでが捨てられていたことです。まだ使えるものが捨てられているのを見るたび、もったいないと感じます。皆さんには、日々の暮らしの中で生まれる「もったいない」を減らすため、自分ですることを考えてもらえたらうれしいです。



環境政策課 主任
関田 能和 さん

正しい分別で 資源を守ろう！

ペットボトルやプラスチック製
容器など、資源物の分別方法で迷
うことはありませんか。

資源をきちんとリサイクルに回
せるよう、この機会に正しい分別
方法を再確認してみましょう。



▲家庭ごみの出し方検索

第二話 — ペットボトルの出し方って？



第二話 — これって、プラスチック？



4Rで資源を守ろう！

4Rとは、ごみを減らしたり、大切に活かしたりする4つの行動

Refuse (リフューズ)、Reduce (リデュース)、Reuse (リユース)、Recycle (リサイクル) のことです。

限りある資源を守るため、身近なことから始めてみませんか。

Refuse リフューズ

ごみになる可能性が高いものを「断る」

(例) 不要なラッピングや過剰な包装は断る



買い物の時はレジ袋をもらわずに、マイバッグを持参するのも立派なリフューズのひとつです。齋藤さんご家族は、お子さんたちも、マイバッグ代わりに自分のリュックサックを背負って買い物に行くのが定番です。

▲齋藤 美加子さん
琴音さん(4歳)
舞花さん(2歳)

Reduce リデュース

モノを大切に使い、ごみの量を「減らす」

(例) 詰め替え用の製品を選ぶ



▲村松幼稚園

毎日、お気に入りの水筒を持って登園する子どもたち。これも、ペットボトルや紙コップなどのごみを増やさないための小さな工夫です。無理なく自然に続けられることが大切ですね。

Recycle リサイクル

分別し、再生品の原料へと「再資源化する」

(例) 資源物をきれいに洗い、正しく分別する



▲村松幼稚園

資源物として回収されるものだけでなく、落ち葉や野菜くずもコンポストでリサイクルできます。作った堆肥を使って、野菜や果物を育てて収穫し、みんなで食べる——。資源が巡る取り組みです。

Reuse リユース

一度使ったものを「繰り返し使う」

(例) 着なくなった服を必要としている人に譲る



▲とうかい村松宿こども園

段ボールや空き箱は子どもたちにとって宝物。工作遊びでさまざまな形に生まれ変わります。役目を終えた廃材が、捨てられる前にもう一度大切に使われて、子どもたちの学びにつながっています。